

IAUD Newsletter vol.11 第9号(2018年12月号)

1. 住空間PJ 第2回 IAUD 住宅学生コンペ開催報告..... 1
2. 「IAUD アワード2017」受賞紹介⑥..... 4
3. 「第7回国際UD会議2019 in バンコク」参加登録開始のご案内..... 13
4. IAUD 12月の予定..... 13



これからの日本の住宅を考えよう

活動報告:住空間PJ 第2回 IAUD 住宅学生コンペ

「UD プラスの家～『ゼロからつくる日本の住まい』を考える～」開催

誰もが心豊かに暮らせる住空間づくりを目標に、「UD プラス」の考えを推進している住空間プロジェクトは、学生の皆さんにフレッシュで斬新な住まいと暮らし方の提案を募る第2回 IAUD 住宅学生コンペ「UD プラスの家～『ゼロからつくる日本の住まい』を考える～」を、昨年に続き今年も開催しました。

今回も日本全国の熱心な学生から応募があり、審査委員による厳正な審査の結果、「入賞」2件と「佳作」1件を選定しました。

今号の Newsletter では、第2回学生コンペ開催の経緯を同PJの宮脇伸歩主査が報告します。

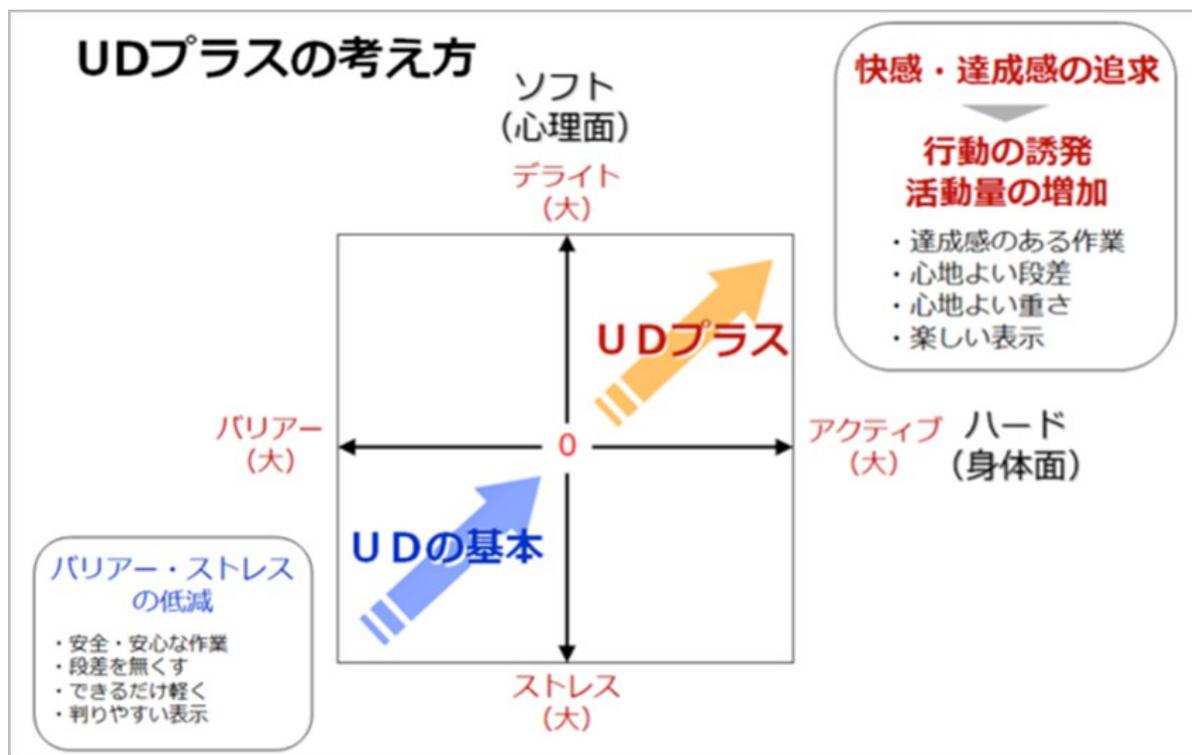


審査会の様子(東京・IAUD サロン)

快適で達成感を追求する「UD プラス」推進

同PJでは、誰もが心豊かに暮らせる住空間づくりを目標に、生活シーンからのアプローチによるテーマ研究を進める中で、様々な視点から「楽しいUD」の実現を目指しています。

そのひとつとして、UDの基本である「身体的・心理的なストレスのない状態を目指す」ことだけに留まらず、「身体的、心理的に適正な負荷(刺激)を与えることで機能の低下を防ぎ向上させる」など + α の発想を加えることで、さらに快適で達成感がある暮らしを実現することを目標とした「UD プラス」の考えを推進しています(次頁図を参照)。



住空間PJが推進しているUDプラスの考え方

学生が考えるUDプラスの家

自然と向き合いながら暮らす日本では、災害はすぐ隣にあるものです。これは普段はあまり意識しないのですが、災害によって突然住まいを無くしたら、どのようにして「暮らし」を取り戻していくか考えておくことは重要です。

そこで、昨年に引き続き今年も学生の皆さんのUDプラスの発想による「ゼロからつくる日本の住まい」についてのアイデアを募りました。

「これからの日本の住宅を担う学生のみなさん」が「これからの日本の住宅」をどのように捉え、どのように住まいを変化させ、喜びがある暮らしを実現したいと考えているのかを表現してもらいました。

それに当たっては、災害によって突然もたらされる非日常の状況を経て新たな日常に戻るまでのプロセスを考えるとともに、暮らしに必要なコミュニティを形成するアイデアなども盛り込んでもらいました。

7月からIAUDのサイト上で募集し、従来の制約にとらわれないフレッシュで斬新な住まいと暮らし方の提案を期待したところ、全国から9件の応募がありました。

UDの専門家と同PJメンバーからなる審査委員による厳正且つ公正な審査の結果、「グランプリ」対象なし、「入賞」2件、「佳作」1件を選定し、11月19日(月)にIAUDサイト上で結果を発表しました。

第2回 IAUD 住宅学生コンペ 結果発表

■グランプリ

該当なし

■入賞 2点

・法政大学院デザイン工学研究科建築学専攻 木下 将吾、飯塚 まり亜

「壁間に住まう」



土間や縁側といったエレメントを用いることで、私的領域の割合が徐々に高まるようデザイン。

外部空間にある道を土間というエレメントを介し内部まで延長させ、内と外をシームレスに連続させた。

縁側に人が集まれば、そこは向こう三軒両隣の結節点となる。

・前橋工科大学工学部総合デザイン工学科 大富 有里子

「螺旋に暮らす」



日常から近隣とのコミュニティの中心となるような住宅を提案。

非日常が頻繁に起こる今日において、日常から地域のコミュニティを確立させておくことは災害時に孤立せず、地域が一丸となって復興していくことに繋がる。

■佳作 1点

・大阪工業大学大学院工学研究科建築・都市デザイン工学専攻 岡本 大樹、山本 博史

「水が引くまで、、、」



自然現象を受け入れ、雨と共に暮らす住宅を提案。

水を内部まで引き込み、浸水空間としても生活を維持することで、豪雨の際に一度に全てを失うことはなくなる。

気象による自然現象と共にある少し不便なこの住宅は、家族同士の協力関係をつくり、住人は喜びを得ながら生活を営んでいく。

審査総評として、古瀬敏審査委員長(IAUD 理事長／静岡文化芸術大学 名誉教授)からは、「今回の応募は全体として昨年よりおとなしい、という印象を受けた。ここ数年大きな災害が目立つことから、それにどう対応するかを考えている提案が目立った。しかし、ただ高いところに逃げられるようにすればいい、ということでは通常時の利用に不都合があるが、その点を意識しての言及が少なかった。UD という概念を拡張して欲しい、というこのコンペの意図からはもう少し何とかしていただきたかった」とコメントがありました。

※各受賞作品の紹介と審査委員の講評はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/activity/10595/>

国際会議でパネル展示

今回は表彰式を行わず、2019年3月に開催予定の「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」において、受賞作品のパネル展示を計画しています。

皆様のご協力、ご支援により、今回も滞りなく終わることができました。今後も同PJとしては、UD プラスの家についてのアイデアをさまざまな方法で募集していきたいと思っています。

※結果発表についてはこちらをご参照ください。

<https://www.iaud.net/activity/10580/>



更なる UD 社会の実現に向けて

「IAUD アワード 2017」受賞紹介⑥: 金賞受賞の取り組み

「IAUD アワード 2017」受賞紹介の最後となる今回は、金賞 2 件の取り組みを紹介します。

地域計画部門金賞を受賞したタイ・モンクット王工科大学ラートクラバン校(KMITL)の「インクルーシヴ都市づくりのための『万人のためのチャオプラヤー』開発」について、IAUD アワード 2017 審査委員長のロジャー・コールマン氏(英国王立芸術大学院名誉教授)は、「プロジェクトの高い志と、一貫した計画プロセス、そして模範的な水準で行われた利用者の参加と意見収集に感銘を受けた。現地地域の人間環境の多様性と独自性の維持尊重を重視しており、現地の住民と文化の多様性を反映している」と評価しました。

また、教育部門金賞を受賞した香川県教育委員会／小豆島町教育委員会／国立香川大学／富士通(株)／富士通デザイン(株)の「ともに学ぶプロジェクト 障がいの有無によらず共に学ぶための ICT 利活用」については、「特別なニーズと小学校を隔てる壁を打ち破ることを目指した、非常に有望な官民連携プログラム。共に学ぶことが多様化を支えるデザインの鍵であることを再確認させてくれた」と評価しています。

今号の Newsletter では、「インクルーシヴ都市づくりのための『万人のためのチャオプラヤー』開発」を同大学のアンティカ・サワドスリ准教授に、「ともに学ぶプロジェクト 障がいの有無によらず共に学ぶための ICT 利活用」を富士通デザイン(株)の杉妻謙氏に報告していただきます。



2018年3月に開催の「IAUD アワード 2017 発表会／表彰式&プレゼンテーション in ミュンヘン」にて

※「IAUD アワード 2017」受賞紹介①②③④⑤はこちらをご覧ください。

IAUD Newsletter vol.11 第 1 号(2018 年 4 月号) <https://www.iaud.net/newsletter/9754/>

IAUD Newsletter vol.11 第 2 号(2018 年 5 月号) <https://www.iaud.net/newsletter/9803/>

IAUD Newsletter vol.11 第 3 号(2018 年 6 月号) <https://www.iaud.net/newsletter/9937/>

IAUD Newsletter vol.11 第 4 号(2018 年 7 月号) <https://www.iaud.net/newsletter/10080/>

IAUD Newsletter vol.11 第 6 号(2018 年 9 月号) <https://www.iaud.net/newsletter/10387/>

※「IAUD アワード 2017」受賞結果はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/9631/>

※「IAUD アワード 2017」審査講評はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/9634/>



模範的でユーザー中心的なデザイン開発研究

地域計画部門金賞: インクルーシヴ都市づくりのための「万人のための
チャオプラヤー」開発

モンクット王工科大学ラートクラバン校(タイ)

河岸地域に誰もが利用できる公共スペースを

「万人のためのチャオプラヤー」を目指すこの開発プロジェクトは、タイの首都バンコク市内を流れるチャオプラヤー川河岸地域に、誰もが利用可能な公共スペースを開発することを目指しています。

バンコク首都圏当局がタイの国立大学であるモンクット王工科大学ラートクラバン校(KMITL)と協力し、地域住民や関係者からの意見を基にインクルーシヴに配慮したデザインプロセスによって、UDに基づいた6つの開発計画を提案しました。



バンコク市内を流れるチャオプラヤー川

民間に占有されてきた公共スペース

多くの大都市では、公共スペースをあらゆる人が利用できるようにすることは難しいのが現状です。

特に、身体障害者や経済的な困難を抱える人々にとっては、アクセスがさらに困難となっています。

タイの首都バンコク中心部を流れるチャオプラヤー川河岸地域は、バンコク市内で最も魅力的な場所の1つとされています。

両岸は有名寺院や王宮などバン



プロジェクトの対象地域

コクの主要な観光名所がある歴史的地区と、高級ホテルやショッピングセンターが並ぶ経済的に発展した新市街地区があります。

また、チャオプラヤー川はバンコク市内交通の大きな要素となっており、兩岸を行き来する水上ボートが頻繁に運行されています。

一方、低所得層の人々は河岸沿いの劣悪な環境の住居に暮らしています。

バンコク首都圏当局と KMITL の調査の結果、公共スペースであるはずの 22 万km²以上の河岸地域は、これまで長年にわたり民間セクターによって占有されていることが分かりました。レストランや高級ホテルなどに無許可で利用されているのが現状です。

そのため、低所得層の人々にはこのような民間セクターによって開発された場所には無縁です。

また、これまでチャオプラヤー川河岸地域へのアクセシビリティは民間のボートサービス業者によって管理されてきました。この交通手段では、障害者や高齢者による河岸での社会的活動への参加が制限されてしまいます。

そこで、バンコク首都圏当局と KMITL で、チャオプラヤー川河岸に誰もが利用できる公共スペースを生み出そう、というプロジェクトを始めました。

35 地域の住民と 14 の関連団体から意見収集

プロジェクトの対象地域は、バンコク北部を流れるチャオプラヤー川河岸 7km(兩岸計 14 km)の地域です。

障害者や低所得者、および高齢者がよりアクセスしやすい公共の場を作ることを目指しています。

そのため、対象地域にある 35 のコミュニティの住人とのグループディスカッションを重視しました。バンコク首都圏当局と KMITL は各コミュニティに 3 回以上訪問し、河岸の開発に対する住人の意見を収集、議論を重ねました。



河岸地域付近のコミュニティとのグループミーティングを重視

さらに、土地利用や公共空間に関心のある14の関連省庁や民間機関ともミーティングを行い、土地利用の関心事項や公共スペースの認識に関して話し合いました。

また、河岸地域のデザインを専門とする建築士や前市長など、チャオプラヤー川に関連する知識のある専門家や有識者にも詳細なインタビューも行いました。



チャオプラヤー川有識者とのインタビュー

当プロジェクトを進めるにあたっては、公共スペースへのアクセスに対する行政サイトと民間サイトの異なる関心を、いかに折り合いをつけるかという課題がありました。

そこで、プロジェクトに多種多様なステークホルダーによる意見をデザインプロセスに取り入れることにより、河岸地域の要件を収集してUDのコンセプトを反映させました。

そして、河岸沿いに公共の遊歩道を整備することで、これまで私的に使用されていた土地を公共のスペースに戻すことができ、公共スペースの利害に対する官民の歩み寄りを実現しました。



公聴会の様子

UDに基づいた6つの開発計画

数千人もの関係者が参加した3回の公聴会を経て、2015年5月にチャオプラヤー川両河岸14kmを対象とした以下の6つの開発計画を提案しました。

車いす利用者やサイクリング、ウォーキングに柔軟に対応できる川岸歩道のデザインや、歩行者が楽に移動できる段差のない舗装などにUDのコンセプトが適用されています。

また、洪水対策や河川接続の利便性も配慮しており、街の歴史的景観も改善しています。



UDコンセプトを適用したデザイン

- ①既存の公共交通（ボート、鉄道、自動車）をつなぐアクセスしやすい歩道
- ②既存の防水堤防の改善
- ③公共船着場の整備
- ④河岸沿いの展望台の整備
- ⑤公共サービス軸の整備
- ⑥河川への連結場所の整備

社会経済的不平等の改善へ

このプロジェクトでは、最も安価で誰もが利用可能な交通手段である歩行や自転車に利用できる遊歩道の整備を提案しています。

また、既存のバスや鉄道を繋ぐ遊歩道の整備は、長年利用されてきた水上ボードに代わるアクセス手段となります。

さらに、チャオプラヤー川河岸の遊歩道にあらゆる交通手段や公共施設をつなげており、あらゆる人々にとって物理的かつ社会文化的なアクセシビリティを創出しています。

我々は、ASEAN 圏の地図上に、よりインクルーシヴデザインに配慮した都市を描きたいと考えています。

※「Chao Phraya for All」プロジェクトの詳細はこちらの動画をご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=P3tE3CjWGAQ>



アクセスしやすい遊歩道



インクルーシブ教育に効果的な ICT 利活用モデルの開発

教育部門金賞:「ともに学ぶプロジェクト 障がいの有無によらず共に学ぶための ICT 利活用」 香川県教育委員会／小豆島町教育委員会／国立香川大学／富士通(株)／富士通デザイン(株)

産学官共創プロジェクト

社会課題である「共生社会の形成」に向けて、文部科学省は障がいのある子どももない子どもも共に学べる「インクルーシブ教育システム」の構築を推進しています。

障がいのある子どもたちが十分に教育を受けられるようにするためには、一人ひとりの障がいの状態や教育的ニーズに応じて提供される「合理的配慮」と、その基礎となる教育環境の整備である「基礎的環境整備」が重要です。

そして、それらを効果的に実現する手段の一つとして、ICT の利活用が注目されています。

そこで、香川大学と富士通は、香川県教育委員会と小豆島町教育委員会の協力を得て、特別支援学校と小学校で、インクルーシブ教育システムにおける合理的配慮や基礎的環境整備において有効な ICT 利活用モデルやソフトの開発を目的とした、実証実験「ともに学ぶプロジェクト」に産学官の共創で取り組みました。



香川県内の小学校での実証実験の様子

社会課題であるインクルーシブ教育システムの構築に向けて産学官共創で取り組み

デザイン思考に基づき特別支援教育現場での ICT 利活用を実践

子どもたち一人ひとりに寄り添いエンパワーする ICT 利活用モデル、コミュニケーション支援ソフトを開発

実証実験「ともに学ぶプロジェクト」概要

9 か月間 6 校で実証実験

産学官共同研究「ともに学ぶプロジェクト」を 2016 年 1 月 7 日から 3 月 31 日と 2016 年 9 月 30 日から 2017 年 3 月 31 日までの計約 9 か月間、香川県内の特別支援学校と小学校の計 6 校において実証実験を行いました。

富士通
富士通デザイン

ICT機器
ソリューションの提供

香川大学

ICTを活用した
教育・支援ノウハウの提供

香川県
教育委員会 小豆島町
教育委員会

実証実験への協力
特別支援教育現場での実践

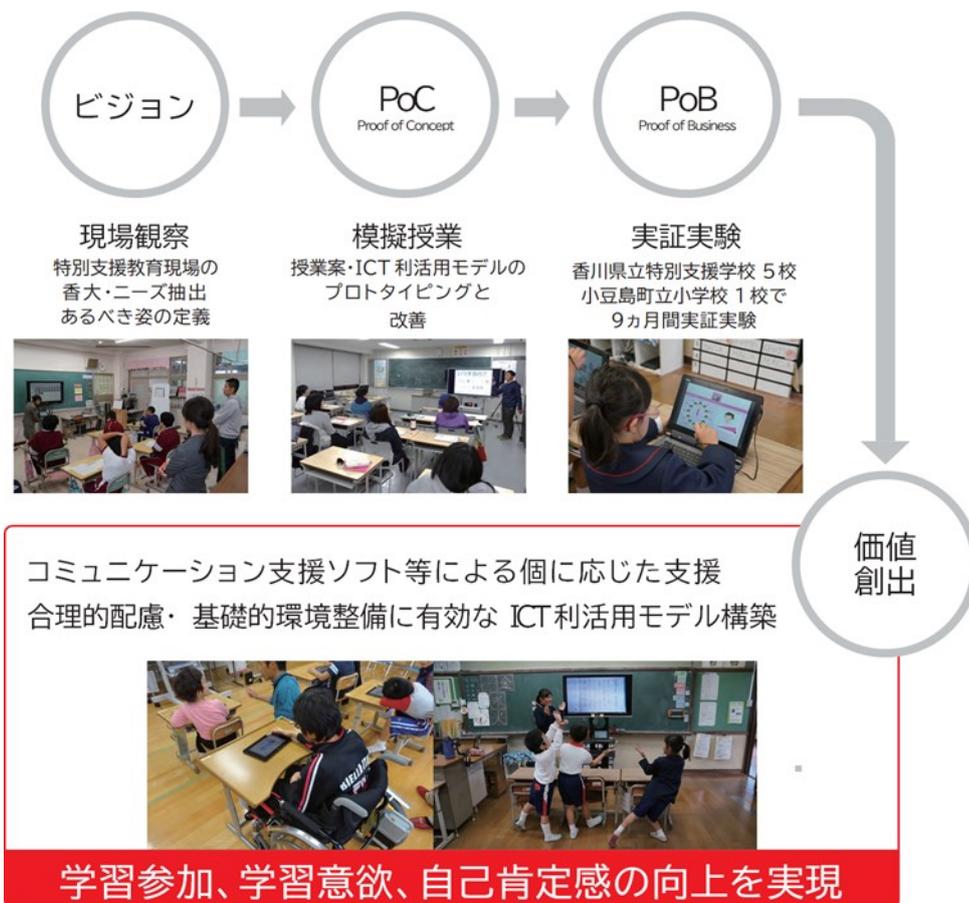
産学官共創での取り組み

デザイン思考を導入

基礎的環境整備と合理的配慮の実現手段として、タブレット PC や各種ソフトウェアを学校現場へ導入しました。

そして、学校での利用に適したタブレット PC、特別な支援を要する子どもたち一人ひとりの障がい特性や発達段階に応じて使用できる学習支援ソフト、学習記録を蓄積する学習情報活用ソフトを学校現場で活用しました。

また、社会生活において特に重要となる経験や気持ちの表出を支援するため、発達障がいや知的障がいがある子どもたちのコミュニケーションを支援するソフトウェアを、香川大学と共にデザイン思考で新たに研究開発し、活用しました。



実証実験 3 つの成果

実証実験を通じ、児童生徒と教員の双方に下記のような 3 つの効果が認められました。

①学習参加の実現

- ・基礎的環境整備として、タブレット PC 導入
- ・障がい特性に応じた多様な入力手段で学習参加が可能に



School Tablet / ARROWS シリーズ

②個に応じた支援の実現

- ・合理的配慮として各種ソフト導入
- ・個々の発達段階、コミュニケーション能力に応じた指導・学習が可能に



K-12 特別支援 キッズタッチ



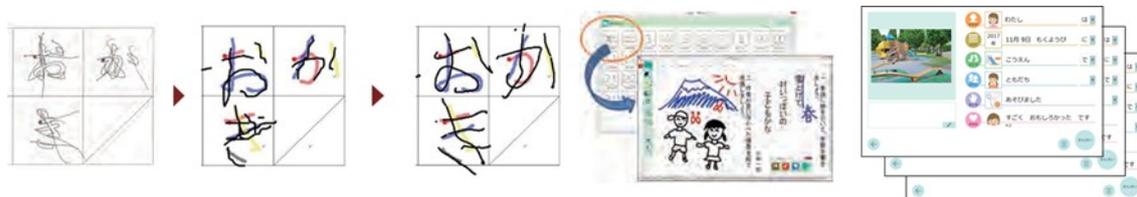
K-12 学習情報活用 知恵たま



コミュニケーション支援ソフト
きもち日記

③学習意欲、自己肯定感向上の実現

- ・学習エビデンスを蓄積、成長や成功体験を可視化
- ・子どもたち自身が成長を実感し、特別支援学校高等部では大学進学を目標とするまでになった生徒も



可視化された学習成果

プロジェクト成果の普及へ

香川大学と富士通は共同研究終了後、教育機関、支援センター、保護者などに対して、ソフトウェアの活用事例とICT 利活用モデルの有効性などについて成果を幅広く公開しました。

さらに、コミュニケーション支援ソフトウェアについては、実証結果を踏まえて機能や操作性の改善を図り、「FUJITSU 文教ソリューション K-12 コミュニケーション支援 きもち日記 V1」として製品化を行いました。

また、富士通は本プロジェクトでの検証結果を、初等中等教育分野向けソリューション強化にも活用していきます。



5W1Hの構造や選択肢を視覚化することでわかりやすく



「感情」の種類と程度を視覚化して表出を支援

Positive/Negative 感情を見ながら選択



「どれくらい」を表情変化とゲージで具体的に



5W1Hの文章 +画像で完成、保存

「てにをは」選択、自由記述で表現をサポート



個々に合った設定で表出を支援

学齢別漢字表示設定、感情種類設定



子どもたちの気持ちや経験の表出・文章表現を支援

※「ともに学ぶプロジェクト」「K-12 コミュニケーション支援 きもち日記」の詳細はこちらのページをご覧ください。

特別支援教育の子どもたちが「ともに学べる」環境の実現へ向けて

<https://journal.jp.fujitsu.com/2016/02/10/01/>

FUJITSU 文教ソリューション K-12 コミュニケーション支援 きもち日記

<https://www.ttools.co.jp/product/other/kimochinikki/index.html>



お得な早期参加受付中

「第7回国際UD会議 2019in バンコク」参加登録開始

IAUD は「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」を、2019年3月4日(月)から6日(水)の3日間、タイの首都バンコクで開催します。

会議のテーマは「UD による持続可能な発展」。ASEAN 圏域の産業振興と地域発展、そして日本との更なる経済的文化的交流を促進することを通じて、質の高い UD 社会の実現をめざします。

参加登録を開始しました。お得な早期登録は一般 12月31日(月)、IAUD 会員と CDAST 関係者は 2019年1月31日(木)までです。

また、国際会議でビジネスにおける UD の取り組みを講演いただく企業や団体も募集しております。どうぞ奮ってご応募ください。

※詳細は「第7回国際UD会議 2019 in バンコク」公式サイトをご覧ください。

<https://www.ud2019.net>



会場となるモンクット王工科大学



2018年12月の予定

月	火	水	木	金	土	日
3	4	5	6	7	1/8	2/9
10	11 13:30~ 研究部会 @富士通デザ イン Hab-Yu	12	13 13:00~ 衣の UDPJ @IAUD サロン	14	15	16
17	18	19 13:30~ 標準化研究 WG @IAUD サロン	20	21	22	23
24 振替休日	25	26	27	28	29	30
31	1	2 事務局・サロン	3 年末年始休暇	4	5	6

IAUD 事務局・サロン 年末年始休暇のお知らせ:

IAUD 事務局とサロンは 12月29日(土)から 2019年1月6日(日)までお休みします。

次号は 2019年1月上旬発行予定

特集: 古瀬理事長 新年のご挨拶 / IAUD 設立 15 年を迎えて ほか

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847 e-mail: info@iaud.net